

理研会報

行 研 究 部
印 教 研 理 科 研 究 部
事 務 局
成 田 市 立 成 田 小 学 校
成 田 市 幸 町 9 4 8 - 1

一〇・一一 印教研理科研究九部集米△云 講評と△云員の声

小学校中・高学年 高橋 正昭先生

「ゆったりとした時間の中で、心ゆくまで自然と向き合いながら繰り返し働きかける。」そんな時間を豊かな体験を子供達に十分に保障してあげたいと思います。特に、中学年の子供達は、理科の扉を開く時期なので、一層大切になってきます。その為には、まず教える側の教師が、実験観察の場や体験の場を保障してあげることが大切になってきます。しかしながら現実には、準備に時間がかかったり、あまり得意でなくどんなものを使いどのように指導したら良いか迷う場合も多くあるのではないのでしょうか。

その点から考えて、今年度も各研究部の取り組みは、内容的に参考になる点が多くありました。二部会の自作のコンピュータソフトを活用した授業実践、四部会の地域素材を活用した取り組み、五部

「ゆったりとした時間の中で、心ゆくまで自然と向き合いながら繰り返し働きかける。」そんな時間を豊かな体験を子供達に十分に保障してあげたいと思います。特に、中学年の子供達は、理科の扉を開く時期なので、一層大切になってきます。その為には、まず教える側の教師が、実験観察の場や体験の場を保障してあげることが大切になってきます。しかしながら現実には、準備に時間がかかったり、あまり得意でなくどんなものを使いどのように指導したら良いか迷う場合も多くあるのではないのでしょうか。

小学校高学年 講評
安井 寅藏先生

五つの部会のそれぞれに特色ある提案について、部会ごとに感想を述べます。(提案順に)
○二部会「生物への興味・関心を高める指導のあり方」では、学習高める指導するためのコンセプトを実態を把握するためのコンセプトマップの導入が提示され、会員の

反応も好評、一つの学習のあり方として評価できる。
○四部会「身近な自然から学ぶ子の育成」では、自然の素材の教材化の試みが提示、また、「広報誌」による地域や学校周辺の自然に傾注させる手法等、自然から学ぶ子の育成に向けての着実な成果を感じることができた。
○五部会「植物のすばらしさを知る指導」では、理科的心情を開発する試みが提示、大切なことで方向性は理解できる。「すばらしさをどう捉えるか等の確かな検討を期待したい」。

○二部会「児童の興味・関心を高める指導」では、効果的なコンピュータの活用のある方を提示。興味・関心にとどまらず、個々の学習高度な理解、印象度の強さ、理解の根拠、満足感等での有効性が実証されたのではないかと。
○一部会「発達段階に応じた理科学習の工夫」では、「楽しい」学習活動に視点を当てた指導過程のあり方を提示。思考の中断を考慮しての連続時間のとり方等の工夫は参考になると思います。
○二部会「生物への興味・関心を高める指導のあり方」では、学習高める指導するためのコンセプトを実態を把握するためのコンセプトマップの導入が提示され、会員の

実践に基づいた発表が多く、資料も要領よくまとめられており、協議も活発になされておりました。研究主題を見ていきますと、意欲を高める指導の在り方・選択理科・科学的思考力を育てる指導・理科における表現力・環境学習等で、どの主題をみましても現在理科教育の大きな課題となっているものです。特に、思考力・表現力等の資質・能力を育てることに主眼をおいた提案が多かったのはうれしいことです。実際の授業においてこれら資質・能力を育てることはあまり重視されず、知識・理解のみ指導の重点が置かれる傾向がありました。

そのような中で、本日の提案を見せていただきますと、生徒自ら方法を考え、観察・実験を行い結果を考察するというように生徒主体の授業を目指しているのはすばらしいことです。そして、普段の授業をこの提案にあるような新しい学力観に基づくものに変えていくってほしいと感じます。知識注入型から抜け出して、生徒の側に立ち問題解決の過程を生徒に主体的にたどらせる授業に努力していただけならと念願いたします。

中学校 講評
宮本 久男先生



△云 員 声 の

声

△云 員 声 の
「中学年分科会より」
交進小 下畦 能正先生
一部の提案からは、ワークショップを行ったことで主体的な学習の進め方が徐々に楽しみながら児童の中に育っていく姿が見られた。二部会の提案からは、児童がパソコンを活用し、満足感をもって学習している様子がよく伝わってきた。三部会の提案については今後提案されるゲームに対する児童の反応やそこから展開される二学期の実践が楽しみだ。四部会の提案からは、フィールドワークが授業にとり入れられていて体験する大切さを改めて感じた。五部会の提案については、さし木の資料がすばらしく花も楽しむというねらいは自然を愛する心情に結びつくと思った。そして、全体を通じて高橋先生の次へつながる歯ごたえのよい助言が心地よい豊かな研究会であった。

「高学年分科会より」
旭小 飯田 和成先生
「教師一人一人が、普段から実践していかなくてはなりません。助言者の安井寅藏先生の言葉が今も心に残っています。今年の印教研集会も各部会ごとに、授業実践に基づいて発表が行われました。個人的に興味を魅かれたのは、第二部会の提案です。というのも、本年度から四街道市の小学校には規模に応じて六十二台のノート

「中学校分科会より」
本塾中 山田 長雄先生
今回は例年にもまして意見が多く出され、白熱した討議が続きました。それは、どの部会の提案も時代の要請を受けた研究を進めていたからだと言えます。環境学習問題解決学習、選択授業への取り組みなど今後皆で取り組んでいかなければならないものばかりでした。数年前には興味、関心を高めることが中心で、教材や教具を工夫し理科離れを防ぐためのものが多く見られましたが、今回は「生きる力」をより具体的に授業に取り入れていこうとする意識が感じられました。総合学習への取り組みも視野に入れた話し合いは、二十一世紀に向けて今後私たちがどのような授業をし、そのためには私たちが自身がどのような発想の転換をしなければならぬのかの示唆に富むものでした。

今年度も各部会とも意欲的な提案がなされ、参加者も今後の指導の参考になるものが多かったこと